

風知可十

地元福岡の先人たちが、暮らしの中で語り継いできた民話を、映像にするという仕事にかかわった。

口承されてきたものを、現在のアーティストたちがどう理解し、どのような映像をつけるのか。博多弁の語り口調は？ 語りを聞くのと、映像付きのテレビを見ることの違いは？ 一抹の不安を引きずりながら、採話、シナリオ、映像、演

出など制作者たちと慎重に確かめつつ番組は出来上がった。そして番組を見た子どもたちの感想文を西日本

サンキライ



朝日に光る紅玉

ちのイメージは映像によって飛躍的に広がっていた。博多弁の良さ、面白さを楽しんだ者も大半を占めていた。不安は杞憂だったようだ。

子どもたちの感性は、とてつもなく自由だ。翼を持ち、空を飛ぶ。

民話は口承の時代から活字文化の時代へ、そして今は映像で楽しめる。民話は豊かでたくましい。映像の時代になお生き残り、また新しく作られ、時代の色をにじませながら残っていく民話とは、どんなお話なの

## 新しい民話

だろっ。

(ひ)